

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分
 【発行日】平成24年3月15日(2012.3.15)

【公開番号】特開2010-201680(P2010-201680A)
 【公開日】平成22年9月16日(2010.9.16)
 【年通号数】公開・登録公報2010-037
 【出願番号】特願2009-47668(P2009-47668)
 【国際特許分類】

B 4 1 J 15/04 (2006.01)

B 4 1 J 2/01 (2006.01)

B 4 1 J 11/02 (2006.01)

【F I】

B 4 1 J 15/04

B 4 1 J 3/04 1 0 1 Z

B 4 1 J 11/02

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月27日(2012.1.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一対のローラーのニップ部を介して、印刷ヘッドに対峙している吸引ブラテンのブラテン面に記録紙を送り出す記録紙搬送路構造であって、

前記ニップ部は、前記ブラテン面に対して前記印刷ヘッドの側にオフセットした位置にあり、

前記ニップ部を通る接平面が、前記ニップ部から前記ブラテン面に向かうに連れて当該ブラテン面に接近する方向に傾斜する傾斜面となるように、ローラー対が配置されており、

前記ブラテン面の前記ニップ部の側には、前記ブラテン面の前記ニップ部の側に向けて前記印刷ヘッドの側に傾斜する傾斜面部を有して前記ニップ部から送り出される前記記録紙をガイドするガイド面が形成されており、

当該ガイド面は、前記接平面から突出しない高さのガイド面であることを特徴とする記録紙搬送路構造。

【請求項 2】

前記ガイド面の傾斜面部の傾斜は、前記接平面に沿った傾斜角度である請求項 1 に記載の記録紙搬送路構造。

【請求項 3】

前記ガイド面は、前記傾斜面部に連続して前記ニップ部の側に向かうに連れて前記印刷ヘッドの側とは逆の側に傾斜しているすくい面部を備える請求項 2 に記載の記録紙搬送路構造。

【請求項 4】

前記すくい面部に連続して、前記ニップ部の側に突出する突出面部が形成される請求項 3 に記載の記録紙搬送路構造。

【請求項 5】

前記ブラテン面は前記記録紙の搬送方向に延びるリブの上端面によって規定されており

、
前記リブは前記吸引プラテンの端よりも前記ニップ部の側に突出する突出リブ部を備えており、

当該突出リブ部の上端面が前記突出面部である請求項 4 に記載の記録紙搬送路構造。

【請求項 6】

前記プラテン面は上向きの水平面を有し、

前記ローラー対は、水平に配置されて上下方向から相互に圧接する請求項 1 ないし 5 のうちのいずれか 1 項に記載の記録紙搬送路構造。

【請求項 7】

請求項 1 ないし 6 のうちのいずれか 1 項に記載された記録紙搬送路構造を有するプリンター。

【請求項 8】

前記印刷ヘッドはインクジェットヘッドであり、前記吸引プラテンは前記インクジェットヘッドのインクノズル面に対峙する請求項 7 に記載のプリンター。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

上記の課題を解決するために、本発明は、一对のローラーのニップ部を介して、印刷ヘッドに対峙している吸引プラテンのプラテン面に記録紙を送り出す記録紙搬送路構造であって、前記ニップ部は、前記プラテン面に対して前記印刷ヘッドの側にオフセットした位置にあり、前記ニップ部を通る接平面が、前記ニップ部から前記プラテン面に向かうに連れて当該プラテン面に接近する方向に傾斜する傾斜面となるように、ローラー対が配置されており、前記プラテン面の前記ニップ部の側には、前記プラテン面の前記ニップ部の側に向けて前記印刷ヘッドの側に傾斜する傾斜面部を有して前記ニップ部から送り出される前記記録紙をガイドするガイド面が形成されており、当該ガイド面は、前記接平面から突出しない高さのガイド面であることを特徴としている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

ここで、前記ガイド面の傾斜面部の傾斜は、前記接平面に沿った傾斜角度であることが望ましい。このようにすると、ニップ部から送り出される記録紙の送り出し方向とガイド面の傾斜面部分の方向が一致するので、記録紙の撓みを確実に防止できる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

また、前記傾斜面部に連続して前記ニップ部の側に向かうに連れて前記印刷ヘッドの側とは逆の側に傾斜しているすくい面部を備えることが望ましい。たとえば、ニップ部から送り出される記録紙の部分に曲げ癖、折り癖が付いている場合などにおいては、このような部分が、すくい面部分によって下流側の傾斜面部分に向けてすくい上げられるので、記録紙を円滑に搬送することができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0014
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0014】

さらに、前記すくい面部に連続して、前記ニップ部の側に突出する突出面部が形成されることが望ましい。突出面部分を形成することにより、吸引ブラテンとローラー間の隙間を狭くできるので、この部分に記録紙が詰まる紙詰まり状態の発生を防止できる。

【手続補正6】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0015
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0015】

ここで、吸引ブラテンとしては、前記記録紙の搬送方向に延びるリブの上端面によって規定されている構造のものを採用することができる。この場合には、各リブの上端面によってガイド面を規定することができ、また、前記吸引ブラテンの前記端面よりも前記ニップ部の側に突出する突出リブ部分を形成して当該突出リブ部分の上端面によって前記突出面部分を規定すればよい。

【手続補正7】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0016
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0016】

前記ブラテン面を上向きの水平面部を有し、前記ローラー対は、水平に配置されて上下方向から相互に圧接する配置が採用される。